

一般演題(口演) | 看護教育

第32群 看護教育

座長：古橋 洋子（青森中央学院大学）

2017年12月17日(日) 09:30 ~ 10:20 第4会場（会議棟 白檀1）

[O32-3]グローバル時代の看護系大学における FDとキャリア支援—国際活動委員会の教員の経験の展開から—

○野地 有子¹, 近藤 麻理², 小寺 さやか³, 溝部 昌子⁴ (1.千葉大学大学院看護学研究科, 2.東邦大学看護学部, 3.神戸大学大学院保健学研究科, 4.国際医療福祉大学福岡看護学部)

【目的】高等教育分野において国際化が急速に進められる中、わが国の看護系大学の約40%に国際活動（交流）委員会が設置されている（野地ら2016）。しかし、担当教員の負担感は大きく、FD（Faculty Development）のニーズは高い。本研究の目的は、教員の国際活動委員としての経験が、自己の成長やキャリア発展にどのように影響しているのかを質的に記述し、国際活動推進のためのFDコンテンツの開発について、キャリア支援の視点を踏まえて検討することである。

【方法】国際活動委員を一年以上経験した看護系大学の教員を機縁法で9名選定し、日本国内3箇所（東京、神戸、福岡、1箇所につき3名）でフォーカスグループ・インタビュー（FGI）を実施した。ファシリテーターがインタビューガイドを用い、1回当たりおよそ90分のインタビューを行った。内容は、1. 国際活動委員の経験から自分自身が学びを得たこと、2. 国際的研究活動などの発展とその準備についてであった。インタビューの内容は参加者の許可を得てICレコーダーに録音し、逐語録に起こしてコード化し質的記述的分析を行った。

【倫理的配慮】発表者の大学の倫理審査委員会の承認（28-110）を得て実施した。

【結果および考察】参加者の経験は、学生の渡航の引率から留学生の受入れにまで多岐に渡っていた。分析の結果、1. 国際活動委員の経験から自分自身が学びを得たこととして、組織的対応の重要性、教育者としての成長、研究者としての成長の3点が挙げられた。2. 国際的研究活動などの発展として、学生交流の事前打ち合わせの機会等を通して海外研究者とつながる、共同研究を持ちかける、共同カンファレンスを実施するなど教員の能力発展の成果につながる経験が抽出された。また、委員会活動が組織内で十分に認知されていない等の課題が挙げられた。

本研究より、グローバル時代の看護系大学におけるFDでは、学生や教員の国際活動（受入れや派遣）を通した多様な経験が、教員の能力開発（FD）につながっていることが示唆された。グローバル時代の看護系大学における教員のFDにおいて、国際活動委員の経験は多様性（ダイバーシティ）を広げる具体的な機会になると考える。今後、組織的な環境整備やキャリア支援などの課題に取り組む必要性が改めて示された。調査にご協力いただきました大学の皆様に深謝いたします。

本研究は、平成28年度29年度 看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター 共同研究 FDコンテンツ開発および小高根美那子看護教育研究助成金により実施した。